

空き家活用モデル事業の検討状況について

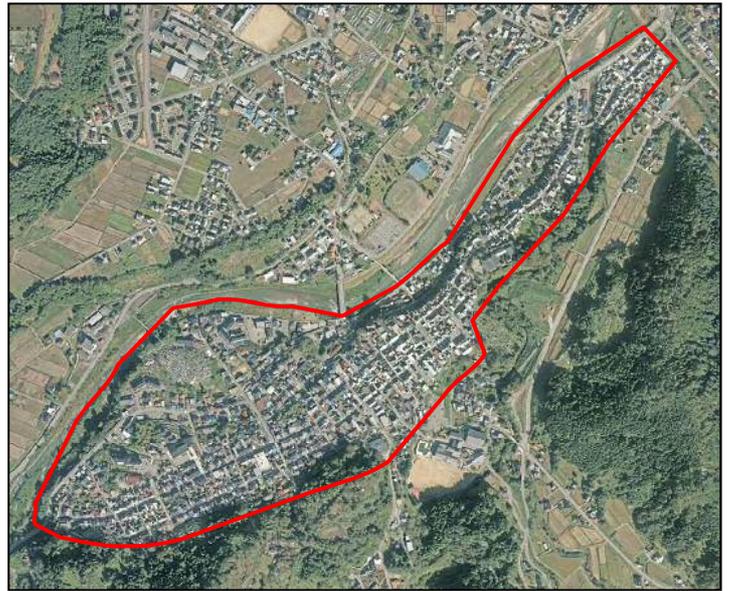
1. 概要

「歴史・伝統的な町並み」「曳山」「おわら風の盆」などの地域資源が豊富な八尾地区において、空き家を活用した滞在体験施設などのモデル事業の実施に向けた検討を行う。

2. 現状

八尾地区は、江戸時代前期に聞名寺の門前町として開かれ、住民や事業者の方々の自主的な取り組みにより、深い軒の出や格子戸などの伝統的様式を取り入れた、美しく落ち着いた風情あるまち並みの形成が進められてきました。

一方で、八尾地区の人口、世帯数は減少しており、この10年間で人口は約20%、世帯数は約6%の減少となりました。



	人口	世帯数
H19年10月末	2,741	963
H24年10月末	2,452	925
H29年10月末	2,216	902

空き家の件数については、過去の調査結果が無いことから比較はできませんが、人口減、世帯数減により増加していると考えられ、現在は約150件の空き家があります。



3. 調査状況

本モデル事業では、空き家を取得し、改修することを予定している。現在は、空き家と思われる家屋の現地調査を実施しており、空き家の位置や状態などから、候補とする物件の絞込みを行う準備を進めています。また、個人

の財産であり、個人のご理解、ご協力が重要であることから、所有者等の意向を確認するためのアンケートの準備を進めているところです。

4. 関係団体との連携

本モデル事業は、単に空き家の改修を行うものではなく、地域の活性化に寄与する施設となることを目指しております。このためには地元の自治振興会や商工会、観光協会などとの連携が不可欠であることから、これらと協議を行いながら、事業スキームなどの検討を行っているところです。